

1. 丈六仏

Q : 「丈六」ってどういう意味？

A : 讚衡藏に安置されている3体の大きな仏さまは「丈六仏」とよばれています。「一丈六尺の身長いぢょうろくしゃく しんちよう ほとけの仏さま」という意味です。いまは長さながをあらわすのに「m」(メートル)をつかいますが、むかしは「丈」とか「尺」といった単位しやく たん いをつかいました。1丈=10尺=約3.3mとなりますので1丈6尺は約4.8mです。この仏さまはすわっておられるので坐高ざこう(すわった高さ)はだいたいその半分はんぶんぐらいです。



丈六仏 (中央が阿弥陀如来、両脇が薬師如来)

せんじゆかんのん ぼ さつ 2. 千手観音菩薩

Q : どうしてたくさんの手があるのだろう？

A : 「千」というのは「たくさん」という意味で、この千手観音菩薩は全部で32本の手を持っています。たくさんの手があるのは、世の中で苦しんでいるたくさんの人たちを救いたいという願いのあらわれです。おへそのまえ、両手で持っている鉢は薬食（病気をいやす薬や食事）を入れるためのもので、右手に持つ長い杖は錫杖とって、苦しんでいる人に来訪を知らせながらあらゆる場所を渡り歩くための杖です。このようにたくさんの手に持っている道具はみな、苦しむ人たちを救うときにつかうものなのです。
また左足拇指を上にて、自分から歩みよって救ってくださる様子をあらわしています。



せんじゆかんのん ぼ さつ
千手観音菩薩

うるしこうげい どうないぐ
3. 漆工芸の堂内具（お堂の中の道具）

Q：お堂のなかにある漆の工芸品ってどんなもの？

A：お堂のなかにある仏教の道具を「堂内具」とよんでいます。漆がつかわれるのは木製の堂内具です。木製の堂内具には、仏さまの前に置いてお経の本やお香などを乗せる「案」とよばれる机、お経をあげるときチーンという音をならす「磬」をつり下げる「磬架」、和尚さんがお経をあげるときにすわる「礼盤」、油皿をのせて明かりを灯す「燈台」などがあります。いま展示されている木製の堂内具は漆や螺鈿などのかざりがだいぶはがれていますが、もとは黒い漆ときらきら輝く金、白銀に光る夜光貝の螺鈿で美しくかざられていました。



じつぶつ ふくげん けい か
実物をもとに復元された磬架



とうだい
燈台



あん
案



らいばん
礼盤

4. 金属工芸の堂内具

Q : 金銅華鬘はなにをあらわしているのだろう？

A : 金属製の堂内具に、うちわのような形をした「金銅華鬘」があります。

金銅とは金メッキした銅のことです。

インドには花を編んで輪をつくり、かざりとする習わしがあります。

仏さまにも花輪を供えましたが、時がたち中国、日本へと仏教が伝わ

るうちに、本物の花よりも長持ちのする銅や革などで花の模様をつく

り、お堂をかざるようになります。これが「金銅華鬘」です。

また、たて長のはたの頭の部分をかざる「金銅幡頭」にも花の模様がすかし彫りにされています。

この華鬘や幡頭の花は「宝相華」という極楽にさく花です。華鬘の左

右には極楽に飛び美しい声をかなでる「迦陵頻伽」の姿がみえます。

幡頭の中心には天女の姿が見えます。華鬘や幡頭をかざることで、金

色堂の中が美しい極楽浄土の世界であることをあらわしているのです。



金銅華鬘



金銅幡頭

だいにちによらい
5. 大日如来

だいにちによらい ほとけ
Q : 大日如来ってどんな仏さま？

だいにちによらい う ちゆう ちゆうしん ほとけ だいにちによらい い
A : 大日如来は宇宙の中心にいるといわれる仏さまです。大日如来は生き
とし生けるものを照らして下さいますが、その光は影をつくらない
ことからお日さまにもまして大きな存在であるという意味で大日と
よばれます。



だいにちによらい
大日如来

6. 経典

Q：平安時代、中尊寺にはどれぐらいのお経があったのだろうか？

A：中尊寺には「金銀字交書一切経」、「金字一切経」、「宋版一切経」という3セットの一切経が伝えられています。一切経とはすべてのお経という意味で、1セットで5300巻ほどになります。しかしのちの時代にお寺から持ちだされ、中尊寺には金銀字交書一切経が15巻、金字一切経が2724巻伝えられ、国宝に指定されています。宋版一切経は226帖伝えられています。

Q：はるばる中国から輸入されたお経があるって本当？

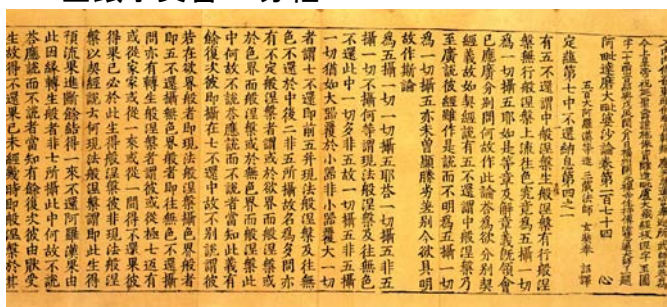
A：平安時代、写経（お経を書き写すこと）をしてお寺に納めることは極楽浄土に生まれかわるための大きなたすけになると考えられていました。奥州藤原氏も3代にわたってたくさんの写経を行いました。そしてそのためにはお経を写すための正確なテキスト（お手本）が必要でした。そこで中国南宋からはるばる輸入されたのが「宋版一切経」です。宋版一切経は木版刷りのお経で、当時もっともまちがいのない正確なお経とされ、大変高価でした。藤原氏はこのお経を大量の砂金をついやして輸入したと伝えられています。



金銀字交書一切経



金字一切経



宋版一切経

7. 金色堂棺内副葬品

Q : 奥州藤原氏はどうして金色堂のなかに葬られたのだろうか？

A : 親子4代にわたる御遺体が900年ちかくものこされている例は世界にもありません。

奥州藤原氏の時代は誰もが極楽浄土に生まれかわることを願っていました。また浄土に生まれかわった人は遺体が滅びないと信じられていました。

奥州藤原氏のお体が今も金色堂の中にあることで、金色堂が浄土の世界であることの真実味が強められているのです。

Q : どのような副葬品を納めたのだろうか？

A : 奥州藤原氏の棺の中にはたくさんの副葬品が納められていました。極楽浄土に生まれかわるための呪文が書かれ、遺体にかけていた「絹本墨画像（曳覆曼荼羅）」や「念珠」、お坊さんのつける「袈裟」、魔物をはねのける「守り刀」、「小袖」などの衣服や「枕」、「打ち紐」、「金塊」、「刀子」とよばれる小刀など。平安時代の衣服や日用品が絵や文字ではなく実物でこれほど残っている例はなく、どれも大変貴重なものばかりです。また、4代泰衡公の「首桶」から発見されたハスの種が800年ぶりに花開き、「中尊寺ハス」とよばれて7月から8月にかけて美しい花を咲かせています。



けんぼんぼくがぞう
絹本墨画像



かたな ねんじゆ などの 副葬品
刀や念珠などの副葬品



ちゆうそんじはす
中尊寺ハス

8. 文殊菩薩・螺鈿八角須弥壇

Q : 「三人よれば文殊の知恵」ってどういう意味？

A : たくさんの菩薩の中で「知恵第一」といわれるのが文殊菩薩です。「三人よれば文殊の知恵」とは、一人で考えるよりも三人集まって相談するほうが文殊菩薩のようなよい知恵がでてくるものだ、という意味です。この文殊菩薩はお経を納めた経蔵のご本尊でした。また手には「如意」という万能自在の杖を持っています。

Q : 四人の従者はどんな人たち？

A : 四人の従者はみな文殊菩薩に関係のふかい人たちです。

- ① 文殊菩薩の勧めで五十三人の先生のもとをたずねて歩く「善財童子」
- ② 中央アジアの王で師子（ライオンをイメージした聖獣）のたづなを引く「于闐王」
- ③ 文殊菩薩を求めてはるばるインドから中国の五台山までやってきた「仏陀波利」
- ④ 五台山の仙人で文殊菩薩の化身でもある「大聖老人」

Q : 須弥壇ってなんだろう？

A : 須弥壇とは仏さまの安置されている壇をいいます。仏教の考え方では宇宙の中心に須弥山という山があると考えられています。須弥壇とはこの山の名前からきているのです。



文殊菩薩と四人の従者



螺鈿八角須弥壇

く ようがんもん ねんぴょう 9. 供養願文・年表

く ようがんもん
Q: 供養願文ってなんだろう？

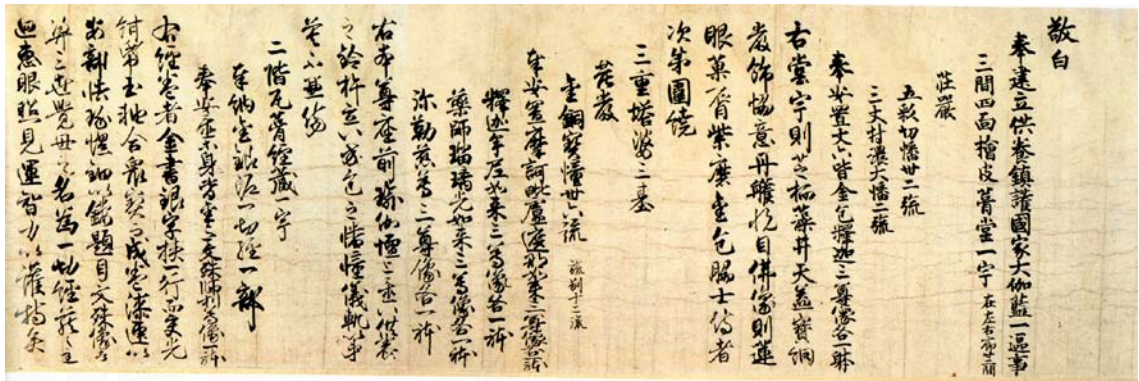
がんもん ほとけ ねが か ぶんしよう ちゅうそん じ こんりゅうく
A: 願文とは 仏さまへのお願いごとを書いた文章の事です。この「中尊寺建立供養願文」は藤原清衡公が中尊寺を建てたとき仏さまの前で読んだお願いごとの文章です。

ふじわらのきよひらこう ちゅうそん じ た
Q: 藤原清衡公はどうして中尊寺を建てたのだから？

がんもん よ なが せんそう つみ いのち ひと どうぶつ やす じょうど
A: この願文を読むと、長い戦争で罪もなく命をうしなった人や動物を安らかな浄土に導きたい、という願いが書かれています。清衡公は「前九年の合戦」「後三年の合戦」という東北地方におこった戦争で父親や妻、子どもをうしなしてしまいました。清衡公は戦争で命をうしなったすべての生き物をへだてなく供養し、仏教をひろめることで悲しい戦争を二度とくり返さないよう願って中尊寺を建てたのです。

ひらいずみ なんねん さか
Q: 平泉は何年ぐらい栄えたんだらう？

ねんぴょう ふじわらのきよひらこう ひらいずみ い じゅう か ほう
A: 年表をみると藤原清衡公が平泉に移住したのが嘉保2年（1095）ごろのことです。その後奥州藤原氏は東北地方の豊かな産物によって3代秀衡公の時には京都に次ぐほどのにぎわいをみせます。しかし秀衡公が亡くなると4代泰衡公は源義経をかくまったとして鎌倉の源頼朝に攻められ、文治5年（1189）に藤原氏は滅亡します。1189-1095=94 となります。およそ一世紀（100年）の間、京都からずっと離れたこの土地に仏教を中心とした文化が栄えました。



ちゅうそん じ こんりゅうく ようがんもん
中尊寺建立供養願文